

第5回（仮称）対馬市市民基本条例検討委員会

意見要旨

日 時：平成23年2月10日（木） 13:30～15:30

場 所：豊玉町保健センター

<出席者>

委員12名出席

事務局3名出席

<内容>

○報告（1）地域マネージャー研修会について

※地域マネージャー研修会について事務局より説明

委員

- ・なぜ会場は3箇所で開催したのか？（6箇所では？）

→厳原・美津島の職員は厳原会場、峰・豊玉→豊玉会場、上対馬・上県→上県会場にということで実施した。

○報告（2）アンケート調査について

※アンケート調査について事務局より説明

委員

- ・職員のアンケート調査数を見た場合、131通という結果になっている。これで市民協働と言えるのかと思う。職員も意識を持たなければいけないと思った。

委員

・このアンケートだが、条例を知っている人が3割という結果になっている。この条例は市民の方にも役割責務が出てくるなかで、9月の最終報告までには知っている方が9割まで持って行かなければいけないと思う。4月以降は、市報を使って住民啓発を重視すべき。電子媒体（HP等）ではなかなか啓発できない。

委員

- ・対馬を知らない人が多い。わかっているだけでこれだけの人口流出はなかったのではないかと。
- ・対馬では自給自足的な生活ができるのではないかと考えている。特に農業、漁業の面においても生産と加工という面で職が増えていくべきだと思う。

委員

- ・大人（雇用）、子ども（自然）→これを条例に絡めていかなければならないと感じた。
- ・高校生少数意見のところに対馬の常識、世間の常識の違いとかいう意見があっており、このようなしっかりした考えを持った高校生もいるんだなと感じた。
- ・あまりにも知られていないアンケート結果なっており、今後市民にどのような媒体を使って周知していくか議論するべきではないか。

委員

- ・大人も高校生も対馬を好きになることを選んだ人が多かったとの結果になっている。この委員会でのワークショップでも多くあっていた。
- ・30数年前に対馬に転勤できて、対馬が好きになった。対馬が好きになった理由は、自然（海・山）、人情味

- ・環境がどんどん破壊されきており、藻場の消失があつていて。魚介類が減ってきている。
- ・藻場の再生に取り組んで、漁業を復活させなければならないと感じた。

委員

- ・対馬の自然を大切にするという意見が多かったのが良かった。私も対馬は、自然、歴史、国境の島というイメージを持っている。
- ・町民憲章（旧6町）を作っている、町もあると思うので、それがあれば次回のたたき台にしたい。

委員

- ・アンケート結果の職場、自然 私もそう思う。
- ・人口流出を防ぐにはどのような対策が必要か行政も、議会も市民も考えていかなければならない。
- ・世界中に対馬は1つ、私は、対馬へ自分の桃源郷を作るために帰ってきた。その地域独特の理想的な生活があり、それが1つの職業になる得るのではないかと思う。まだ見つけ出していないだけだと思う。
- ・TPP→日本の問題であるが、対馬にはもっとシビアな問題になってくると思う。

委員

- ・大人は今そこにある危機的なものに目がいくので、経済や今の生活に対し、目がいつている。なかなか、これからを担う子どもをどう育てていくかという部分に目がいかない。どちらを重視していったらいいか、バランスが難しいと思う。

委員

- ・問5の設問で大人も、高校生もどちらも人口流出、若者の定住対策という意見があつているが、この問題に関して、高校を卒業したら島外に行かなければいけない、少子高齢化で教室も余ってくるのであれば、専門学校を併設するなり、人口流出を防ぐ対策が必要ではないかと思う。
- ・緊急雇用でパートを5名雇って、韓国人がどのくらいのおみやげものに使っている調査をしているのでまた報告したいと思う。
- ・航路関係の協議会でジェットフォイルを何とかしようとか。本土では高速道路の無料化を検討している中で海も国道でありますので、その対策を練って欲しいと言うことで検討している。

委員

- ・大人の結果を見ると市民基本条例を知っている人が少ないと感じた。逆に高校生のうち2%が知っており、よく知っているなど感心した。
- ・市民基本条例とつきにくい。今市民が一番関心あるのは病院問題。
- ・そのために市民に関心を持たせるにはどうしたらいいか検討する必要がある。
- ・私は「市民の声を反映する」ことが一番大事なことではないかと思う。市民と行政が交わる機会がもっと必要だと感じた。

委員

- ・認知度アップ
- ・アンケート結果を見て、大人も高校生も大切にしたいことは、同じことを考えている（対馬の自然）と感じた。
- ・対馬市民の総合力でアクションをおこせないかなと感じた。対馬がANAの機内誌に掲載されており、心強く思った。

委員長

- ・この条例をどうやって知らせていくのかということは常に考えて行かなければいけないと思う。この段階では、貴重な調査であったと思う。

委員

- ・関心を持たせる題材が必要ではないか。例えば 対馬の自然に対し、核廃棄物処理の問題をテーマに議論してみるとかどうか？ 例として言ったが、市民が興味を持つ分野で議論することも大事だと思う。

→委員長

- ・この条例が個別の案件にどのように関係してくるのか、紐といて私たちが説明していくことも大事だと思う。

委員

- ・CATV で市民基本条例検討委員会について放映しているが、ただ流すのではなく、前段において説明してもらいたい。そうすれば少しは関心も持ってもらえるのではないか。

委員長

- ・結構路頭に迷いやすいのが、目的の議論がしっかりしていないと、何でこの場にいるのか、何のためにやっているのかわからなくなる。先日の委員会で前文・目的（たたき台）についてお示しましたが、条例自体でいえば細かいところになるが、まちづくりを進める上で大本になってくる。これに則ってこういう進め方をするという大本になる。我々が瞑想しないために、これだけは守っていきましょうとか、帰る場所であると思う。だからこういう条例があちこちで生まれようとしている状況をご理解いただきたい。条例ができるまでどういった術で伝えるかみんなで見いだして行ければと思う。

○条例骨格たたき台について

※条例骨格たたき台について事務局より説明

委員長

- ・ニセコ町が一番最初に作った条例なので、何度か改正されており、ボリュームが大きいものとなっている。また最後のところで地域性が見受けられるものがある。大和市の自治基本条例でいえば厚木基地が入っている。ニセコ町では国際交流が入っている。まだわからないが対馬であれば韓国との関係が入ってくるのかなと思う。

委員

- ・条例の検討の仕方についてであるが、次回以降は、他の条例と条文を比較検討できる資料を提示いただき、区切りながら検討を進めていったらどうか？

委員長

→そのような形で検討していきたいと考えている。

委員

- ・ニセコ町の条例はどういった経緯でできたのか？

委員長

→財政状況の厳しい中、これからの行政は一方通行ではなく、一緒にやっていかなければいけないという考えのもと、当時の逢坂町長、今は国会議員になっているが、その時に策定された。議会基本条例も北海道の栗山町が先頭に策定された。背景にはこれ以上ほっといたらどうにもならないという危機感が多いに現れているのではないかと思う。

委員

- ・子どものための条文とか、少子化対策に関する条文があったらどうかと思う。少子化対策も含めてそういったものがあつたらいいと思う。

委員

- ・ニセコ町の第11条はいいなと思っている。児童憲章の前文を参考にしたらどうかと思う。また男女共同参画関係で出てきつつあるクォーター制についても検討できないか。対馬の女性は遠慮される方が多いが能力はあると思う。

委員

- ・商工会には、青年部とか女性部とかあり、活動を行っているがこれは基本条例とは別問題になるのか。

委員長

→例えばコミュニティというくくりでいえば、NPO など各種団体が入ってくる。どの範囲まで持つかということになるかと思う。決して排除するものでない。大きなくくりの中で市民の中に入れることを考えることもできる。

委員

- ・アンケート結果や各委員から意見をまとめて、条例の素案を作っていただきたい。注釈を入れて。それをそれぞれの委員が所属している団体やグループ中でもお示しいただければ、色々と意見が出てくるのではないかと思う。

委員長

→2 段階で検討していくことになると思う。必須に近い条文もあれば、あるに越したことはない、条文もあると思う。こういった議論になると思う。

委員

- ・20歳未満の市民の参加の権利は大事だと思う。

委員

- ・さきほど女性・児童の意見が出ていたが、自然保護憲章についても参考にできないかと思う。

委員長

- ・今日は、たたき中のたたきということでお示ししたが、他の条例と関係条文を並べながらどこをメリハリつけるかやっていくかという全体像を見直したいと思う。それにはアンケートの中身であったり、これまでの議論の中身を反映し、皆様にお示ししたいと思う。今後の検討の仕方としては、全体を踏まえた上で、条文について全体をまとめて検討するのではなく、区切って議論をやりたいと思う。スケジュール的に少し期間が空くので皆様には事前に資料をお送りしてご意見をいただければと思う。

○今後のスケジュールについて

※条例骨格たたき台について事務局より説明

委員長

- ・このように基本条例について検討していることを所属の団体の皆様へ話題にさせていただければと思う。どんやりかたでもいい。来年度は進捗状況によっては会議を追加することもあり得る。お力添えをいただければと思う。